

灰田晴彦 はいだ はるひこ 作曲家、ハワイアン・ギター奏者。明治四十二年四月二十四日ハワイ・ホノルル生れ、昭和六十一年十月十六日没（一九九一没）。本名可勝 よしかつ。別名灰田磨汰 いらいら、のち灰田有純彦 ゆきひこ。自糸二世の子、歌手灰田勝彦の兄。慶應義塾大學中退。昭和二年灰田晴彦とモアナ・グリーン・ケラブを結成、ハワイアン・バンドととして活躍。戦時中は敵性音楽を以て演奏中止となるも、「森の小徑」、「鈴懸の徑」を作曲して弟の歌唱でヒットした。終戦直後弟と共に灰田晴彦とニュー・モアナを結成、日本ウクレレ協會會長等々を務めた。

著書『ハワイアンギター教本』(昭和十一年九月二十日東京音楽書院)、『ハワイの思ひ出』(昭和二十一年二月一日用方社)等。

